

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	学年	3	類型	ビジネスコース
教科書	第一学習社 高等学校 地学基礎			副教材	第一学習社 新課程版 ネオバルノート 地学基礎				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1章 地球のすがた	第1節 地球の概観 1 地球の形と大きさ 2 地球の形の特徴と大きさ	○		◎	学習のねらい 1学期は地球の内部の構造や成分、自転や公転、プレートの運動、地震や火山活動についてについて学びます。 2学期は大気や海洋のしくみや動きについて学び、太陽のエネルギーと大気や海洋の動きとの関係、天気について学習します。また、宇宙の塵から地球が誕生するまでの過程を学び、他の太陽系の天体との共通点、相違点を考えます。また地球の 3学期は化石を通して、地球環境の変化と生物の変遷との関係や、自然災害への備えや災害発生時の行動について考えます。
			3 地球の内部構造 4 地球内部の動き		◎	○	
		第2節 プレートの運動	1 プレートの分布と運動	◎	○		
	5		2 プレートの境界 3 地殻の変動と地質構造	○		◎	
			4 変成作用	○	◎		
			5 大地形の形成 中間考査	◎	◎		
	6	第2章 地球の活動	第1節 地震 1 地震の発生と分布 2 地震波の伝わり方		○	◎	
			3 日本付近で発生する地震①	○		◎	
			4 日本付近で発生する地震②	◎	○		
		第2節 火山活動	1 火山の分布 2 火山の形成とマグマ 3 火山の噴火		◎	○	
	7		4 火山の地形 5 火成岩の形成 6 火成岩の種類 期末考査	◎	◎		
		第3章 大洋と海洋	第1節 地球のエネルギー収支 1 大気構成と特徴① 2 大気構成と特徴②		◎	○	
			3 対流圏における水の変化 4 太陽放射と地球放射		○	◎	
			5 地球を出入りするエネルギー	◎		○	
2 学期	8						学習の目標
	9		第2節 大気と海水の運動 1 エネルギー収支の緯度分布 2 風		○	◎	高校地学の基本的な内容（地球、地球の活動史、大気・海洋、宇宙）について、知識・理解・技能の定着を目指す。また、さまざまな演習を通して、課題に対する問題解決能力を高める
			3 大気の大循環① 4 大気の大循環② 5 海洋の構造	○	◎		
			6 海洋の大循環 7 エルニーニョ現象とラニーニャ現象	◎		○	
		第1節 宇宙と太陽の誕生	1 宇宙の探求 2 宇宙の始まり① 3 宇宙の始まり②		○	◎	
	10	第4章 宇宙と地球	4 太陽の誕生 5 太陽の活動 中間考査	◎	◎		知識・技能 基本的な概念や原理・原則などについて理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
		第2節 太陽系と地球の誕生	1 太陽系の構造	◎	○		
			2 太陽系の誕生① 3 太陽系の誕生②	○		◎	
			4 太陽系の惑星 5 生命の惑星・地球		○	◎	
	11	第1節 地層と化石	1 地層の形成 2 地層の重なりと広がり 3 堆積岩		◎	○	思考・判断・表現 事物・現象について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
			4 化石と地質時代① 5 化石と地質時代②	◎	○		
		第2節 地球と生物の変遷	1 先カンブリア時代① 2 先カンブリア時代②	○		◎	
		第5章 生物の変遷と地球環境	3 古生代① 4 古生代② 5 中生代	○		◎	
	12		6 新生代① 7 新生代②		◎	○	
			期末考査	◎	◎		
		第6章 地球の環境	第1節 地球環境の科学 1 気候変動 2 地球温暖化による変化	◎		○	
			3 オゾン層の変化	○	◎		
3 学期	1						主体的に学習に取り組む態度
		第2節 日本の自然環境	1 自然の恩恵 2 季節の変化 3 気象災害① 4 気象災害②	○	○	◎	事物・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
			5 地震災害 6 地震による被害の軽減 7 火山災害と防災	◎		○	
			学年末考査	◎	◎		
	2		家庭学習				備考
			〃				
			〃				
			〃				
	3						

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【概要】

- 地球深部や宇宙など取り扱う範囲が大きいので、何より想像力が大切になります。読書を通して想像力を豊かにしておくことが必要です。
- 問題を解けば解くほど、自然界のしくみがはっきりと見えてきて興味が深まります。家庭での学習習慣を身に付けましょう。
- 地学は物理、化学、生物の基本的な知識を必要とする総合的な学問です。中学校で学んだ内容をきちんとおさえておくことが大切です。

【授業】

- 週に2時間の授業があります。
- 1時間の授業の流れは、次のようになります。
 - ① VTR等を視聴し内容を理解し課題に取り組みます。
 - ② 課題の解法を確認して、要点を整理します。
 - ③ 内容を小テストなどで確認します。
- 教科書・ノートで確認しながら問題を解くことが基本です。
- 問題を多くこなし、粘り強く取り組むことが、理解することにつながります。

【定期考査】

- 語句の意味、表記などを正確に覚えることが基本になります。
- 初めて見る問題でも、知識の応用で全て解けます。あきらめず粘り強く取り組む姿勢をつくりましょう。

◆評価の方法、基準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的な学習態度の3点の観点から評価します。		
評価の基準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)	
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)	
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に③の観点から評価します。)	
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均	